

<報告>

アメリカ日系人オーラルヒストリー・デジタルアーカイブ — 音楽民族学におけるデータの蓄積と共有に向けて —

Japanese American Oral History Digital Archive: Toward the Accumulation and Sharing of Ethnomusicological Data

早稲田 みな子

WASEDA Minako

本研究は、第二次大戦中のアメリカ日系人強制収容所において日本の芸能に従事した人々やその関係者の語りをデジタルアーカイブ化する試みである。報告者は、同収容所における日本芸能を扱ったドキュメンタリー映画（Hidden Legacy, Murasaki Productions, 2014）の製作に関与した。監督の日系四世の箏曲家、シャーリー・ムラモト氏が映画製作のために収録した長時間にわたるインタビュー映像は、音楽民族学的なオーラルヒストリー（口述歴史）として高い価値を持つが、実際の映画ではそのごく一部が使用されたに過ぎない。本研究では、全米日系人博物館のプロジェクト、「ディスカバー・ニッケイ」のウェブサイト内のインタビュー公開ページをモデルに、ムラモト氏の蓄積したインタビュー録画をウェブサイト上で公開し広く共有することで、その歴史資料としての価値が広く活用されることを目指したものである。本稿では、このデジタルアーカイブ構築の具体的な方法とプロセス、およびその進捗状況を報告する。

キーワード：日系人、オーラルヒストリー、デジタルアーカイブ、音楽民族学

本研究は、音楽・芸能に携わるアメリカ日系人のインタビュー録画を、デジタルアーカイブ化することを目的としたものである。研究の発端となったのは、日系四世の箏曲家、シャーリー・カズヨ・ムラモト氏の制作したドキュメンタリー映画、『隠れた遺産——アメリカ日系人強制収容所の日本芸能』（2014年）である⁽¹⁾。日系人強制収容所の音楽・芸能についての拙論（Waseda 2005）を読んだムラモト氏が筆者にコンタクトを取ってくださり、本映画制作に関して助言したり、語り手として自ら出演したりすることになった。そして、本映画制作に際し、ムラモト氏が30名以上にわたる収容所経験者やその関係者にインタビューを実施し、プロのカメラマンによる録画を保存していることを知った。映画で使われたインタビュー映像は、そのごく一部である。映画では不採用になった何十時間にもわたるインタビューには、日系人の歴史や文化に関する数々の貴重な証言が含まれている。日系人強制収容所に関する著述は多数存在するが、そのほとんどは、その非合法性や戦後の賠償請求運動等、政治的側面を中心的に扱っており、音楽・芸能活動に焦点を絞った学術研究は、管見の限り拙論（前掲書）が初めてであった。被収容者による回顧録等においても、若い日系人の間でジャズが盛んだったことはしばしば触れられているものの、日本伝統芸能について記されたものは皆無といってよかった。ムラモト氏によるインタビュー記録は、長い間封印されてきた収容所の日本芸能の状況を中心に日系人の歴史体験の実態を明るみにするものとして、今後の日系人研究に大いに役立つことが期待される。そこで思い立ったのが、この貴重なオーラルヒストリーをデジタルアーカイブ化し、公開する本プロジェクトである。

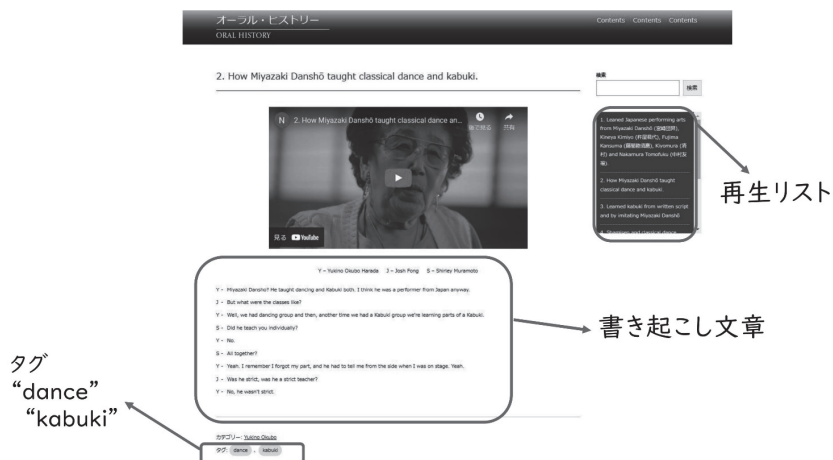
オーラルヒストリーとは、人々の体験の口述を記録として残したものを指す。つまり「語られた歴史」である。オーラルヒストリーは、公的な歴史記述の中では扱われることのなかった少数民族や女性などの社会的マイノリティの歴史を明らかにするための一種の研究手法として、1970年代のアメリカ合衆国や英国で発展した（廣谷、松山 2012, 48）。この分野における先駆的な研究機関として挙げられるのが、1948年設立の「コロンビア大学オーラルヒストリー研究センター」（Columbia University Center for Oral History Research）である（蘭 2019, 57）。同センターでは2万時間に及ぶインタビュー録音とその書き起こしデータを所蔵している⁽²⁾。オーラルヒスト

リーの資料的価値は現在広く認知されているが、その保存・共有方法は様々である。かつては録音音源の保存とその書き起こしが主流であったが、インターネット技術の発展以降は、研究所や大学がオーラルヒストリーのデジタルコレクション（録音、録画、書き起こしデータ等）を所蔵することも多くなった。

本デジタルアーカイブの構築にあたっては、全米日系人博物館によるプロジェクト、「ディスカバー・ニッケイ」のインタビュー・ウェブサイトを参考にした⁽³⁾。このウェブサイトでは、インタビュー録画の一連の抜粋（ビデオクリップ）を公開している。各ビデオクリップには簡単な解説が付されており、その一覧を「再生リスト」によって確認できる。視聴者はインタビュー動画の右側に表示される「再生リスト」から関心のあるトピックを選んで、インタビューの抜粋を視聴することができる。インタビュー全体の録音や録画を保存・公開する場合とは異なり、選択的に視聴ができることが大きなメリットである。またそれぞれのビデオクリップには、書き起こし文章が付されている。語り手の言語に加えて、その翻訳も用意されており、世界の日系人の多くの母語となっている日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語に対応している。さらに、異なるインタビューを貫くタグ（arts, music, danceなどのキーワード）が各インタビューページの下部に示されており、それをクリックすることで、そのテーマを含む別の人物のインタビューに飛ぶこともできる。こうした機能は、特定のテーマについて情報収集したいと考える利用者にとって、資料の有効活用を促すものとして非常に有益である。

「ディスカバー・ニッケイ」に倣ったウェブサイト構築にあたっては、まずインタビューの書き起こしが必要である。この最も時間がかかる作業については、ムラモト氏の協力を得てそのほとんどを終えることができた。次の作業は、その書き起こし文章からウェブサイトに掲載する部分を抜粋することである。歴史的、音楽的に特に興味深いエピソードを選択し、再生リスト用に、各抜粋の内容を説明する簡潔な文章を付していく。この地道な作業もかなりの時間を要し、現在進行中である。実際のビデオの抜粋・編集作業には、書き起こし文章に対応する録画箇所を特定できる英語に堪能な専門家の助けが必要である。そこで、ムラモト氏の紹介を通じて、日系アメリカ人のビデオ編集者にこの作業を委託した。再生リストやタグ付けを伴うウェブサイト構築については、日本国内の専門家に委託した。途中段階のサンプル画面が、以下の図1である。

図1. アメリカ日系人オーラルヒストリー・デジタルアーカイブ（サンプル画像）



本プロジェクトは2022年度国立音楽大学個人研究費（特別支給）の助成を受けて開始したものだが、年度中には完成させることができなかった。継続プロジェクトとして2023年度も同研究費の助成を受けることができ、作業を進めているところである。

途中経過についての評価を得るために、第47回国際伝統音楽学会全国大会（2023年7月13～19日、ガーナ大学レゴンキャンパス）にて、本プロジェクトについての学会発表を行なった⁽⁴⁾。ほとんどの国がかつて欧米の植民地であったアフリカで開催された大会であったこともあり、植民地時代の古い録音・録画資料を保存し、現地の人々に公開することで文化遺産を還元する必要性が、複数のセッションやパネルで取り上げられていた。その中で、資料のデジタルアーカイブ化も注目されており、本プロジェクトの試みには多くの参加者が関心を持ち質問を寄せてくれた。セッション後も声をかけてくれる研究者が複数おり、このテーマへの関心の高さと需要を確認することができた。

また、津田塾大学を本拠地とする「移民研究会」においても、2023年8月10日の研究会にて発表する機会をいただき、昨年出版した拙著『アメリカ日系社会の音楽文化——越境者たちの百年史』（共和国、2022年）⁽⁵⁾とともに、本プロジェクトについて紹介させていただいた⁽⁶⁾。参加者からは完成を期待する声が寄せられ、移民研究者の間での関心も確認することができた。

今後、同ウェブサイトの完成に向けて、さらに作業を進めていく予定である。現在、書き起こし文章は、話者の言語によるもののみであるが、日英両語の表示も目指している。また、将来的には、アメリカ日系人の音楽・芸能に関わる写真コレクションへのリンクも同ウェブサイトに装備したいと思っている。ムラモト氏の仕事を知る日系人からは、日系人と日本芸能との関わりを示す様々な写真が寄せられている。一般公開をして問題のないものについては、このリンクを利用して公開していくつもりである。日系人強制収容所の芸能を中心とした様々な資料のデータベースとして、同ウェブサイトを随時更新し、展開していきたいと考えている。

謝辞

本プロジェクトは2022年度、および2023年度の国立音楽大学個人研究費（特別支給）の助成を受けました。

註

- (1) *Hidden Legacy: Japanese Traditional Performing Arts in the World War II Internment Camps*, Murasaki Productions, LLC, 2014.
- (2) Columbia Center for Oral History Research ウェブサイト内「About - History」より <https://www.ccohr.incite.columbia.edu/history> (2023年9月16日閲覧)。
- (3) *Discover Nikkei* <https://www.discovernikkei.org/en/interviews/> (2023年9月16日閲覧)。
- (4) 大会の正式名称は The 47th International Council for Traditional Music World Conference, University of Ghana, Legon、筆者の発表は7月14日の Session IIA03: Archives and Decolonisation: Accessibility, Ethics, and Sharing にて行なった。
- (5) 同書の出版に際しては、2021年度国立音楽大学研究費（特別支給）の助成を受けた。
- (6) 2023年8月10日（金）09:00～10:30 am、オンライン開催。発表タイトル「『アメリカ日系社会の音楽文化——越境者たちの百年史』（2022年、共和国）の紹介と現在の取り組み（オーラルヒストリー・デジタル・アーカイブ）」。

参考文献

- 藪信三 2019 「特集2 オーラルヒストリーのアーカイブ化を目指して——はじめに」『日本オーラル・ヒストリー研究』第15号：57-60
- 廣谷鏡子、松山秀明 2012 「オーラル・ヒストリーを用いた新しい放送史研究の可能性」『放送研究と調査』1月号：46-55
- Waseda, Minako. 2005. "Extraordinary Circumstances, Exceptional Practices: Music in Japanese American Concentration Camps." *Journal of Asian American Studies* 8(2): 171-209.